

自閉症スペクトラムとADHDの診断を受けている小学1年生の児童の衝動的な行動や不安を解消するための合理的配慮の提供事例

1. 事例の概要

A児は、B小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症スペクトラムとADHDの診断を受けている小学校1年生である。A児は、自分の興味があることには熱心に取り組むことができ、発想力もある。一方で、自分の思いどおりにならない時や興奮した時には、衝動的に行動することがある。

A児が衝動的に不適切な行動をしたときには、その都度、因果関係とA児が不利益を被るということを分かりやすく説明している。また、A児が不安を感じたり、失敗したりして気持ちが不安定になる時には、そのサインを見逃さず、すぐにそばに寄り添い、A児の思いを把握して不安の解消を図るようにしている。さらに、A児が他の児童の手助けをする機会を大切にすることで、自尊感情を高めるようにしている。

このような取組のもと、A児は生き生きと学校生活を送ることができるようになってきている。

キーワード 衝動的な行動、注意集中、不安の解消、自尊感情

2. 生徒の実態

A児は、B小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症スペクトラムとADHDの診断を受けている小学校1年生である。A児は、自分の興味があることには熱心に取り組むことができ、発想力もある。また、言葉をよく知っており、他の児童に難しい言葉の意味を教えたり、別の言葉に言い換えたりする様子も見られる。一方で、自分の思いどおりにならない時や興奮した時には、衝動的な行動をとることがある。

学習面では、ひらがな、カタカナを正確に書くことができる。じっくりと読んだり聞いたりすることは苦手で、始めの方だけ読んで分かったつもりになり、最後まで文章や問題文を読まないことがある。また、学習が分からない、できないと感じると不安になり、それが行動に表れてしまうこともある。

3. 本事例に関する基礎的環境整備

- B小学校では、平成27年度に自閉症・情緒障害特別支援学級を新設した。特別支援学級が新設されたことにより、市内の特別支援学級設置校との連携も図られるようになり、合同学習などの行事を通して児童同士の交流が図られるだけでなく、特別支援学級の担任等が学習指導や学級経営について情報交換する中で指導力の向上が図られている。【基礎1】
- B小学校は今年度、C県の学力向上アドバイザーや特別支援教育を専門とする大学職員を活用した学力向上に取り組んでいる。「安心感のもてる学級」「分かりやすい授業」を目指して授業研究会を複数回実施し、教職員の意識改革と指導力向上を図っている。【基礎2】

- B小学校のあるD市では、特別支援学級が新設・増設された学校に特別支援学級支援員を配置しており、B小学校には、特別支援学級での支援経験のある支援員を1名配置している。また、特別支援学級担任経験もある退職教員を合理的配慮支援員として、週1日6時間配置した。【基礎6】
- B小学校では、特別支援学級の児童と通常の学級の児童との交流及び共同学習を積極的に進めている。また、内容も、学校行事はもとより、教科学習や給食は同学年同士で、清掃や児童会活動は縦割り班の異年齢集団と多様である。【基礎8】

4. 合意形成のプロセス

A児への支援内容については、担任と特別支援教育支援員、合理的配慮支援員等の関係者が話し合い、A児への合理的配慮の提供を記載した個別の指導計画を作成した。保護者に対しては、教育相談の際に担任から個別の指導計画を提示し、A児への支援内容について説明した。その結果、保護者からA児の支援内容についての同意が得られ、合意に至った。

5. 合理的配慮の実際

- 学習において複雑な課題が出た時には、担任又は特別支援教育支援員がA児と一緒に課題を整理してから考えさせるようにしている。その際、絵や図などを使って視覚的に問題を整理するようにしている。【合理①-1-2】
- A児が衝動的に不適切な行動をしたときには、その都度「こういうことをしてしまうとこうなってしまう」という因果関係と、A児が不利益を被るということを分かりやすく説明している。【合理①-2-2】
- A児は不安を感じたり、失敗したりすると気持ちが不安定になるため、担任や支援員はそのサインを見逃さず、すぐにそばに寄り添い、A児の思いを把握して、指導者の説明の補足をしたり、活動の手順を確認したり、励ましたりして不安の解消を図るようにしている。【合理①-2-3】
- A児が身近な友達の役に立ちたいという思いをもつようになってきたので、他の児童の手助けをする機会を大切にするようにしている。相手のペースに合わせて関わる経験にもなり、周囲から感謝されることで、A児の自尊感情を高められるようにしている。【合理①-2-3】

6. 本事例の成果と課題

A児は、B小学校に新設された特別支援学級で学ぶことで、A児の特性に応じた指導を受けることができ、学力はもとより対人行動にも大幅な向上が見られている。交流及び交流学習も計画的に進められ、交流学級においては同学年の児童と一緒にいることが自然な状況になっている。

B小学校入学前の幼稚園ではトラブルもあったA児であるが、このような取組の結果、A児の不安等が徐々に解消され、また、他の児童の手助けをする機会を大切することで、A児の自尊感情を高め、A児が生き生きと学校生活を送ることができるようになってきている。